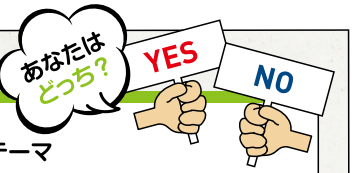


今回のテーマ

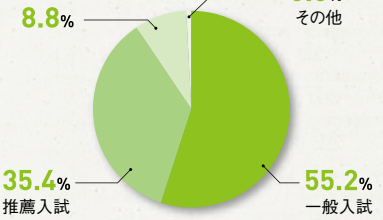
“AO入試”

大学の入試制度の多様化は年々進んでいる。そこで推薦入試とともに注目されているのがAO（アドミッション・オフィス）入試。そのメリット、デメリットを改めて考えてみよう。

参考DATA

選抜方式別の大学入学者の割合

（2010年度入学者）



※文部科学省発表のデータをもとに作成

ここ10年ほどの間に急増 私立大学では8割が実施

学力偏重の選抜による学生の質の単一化、偏差値による大学の序列化、そして受験競争の激化…。大学入試が抱えるこうした課題を受け、多様な人材を入学させることを目的に導入が始まったのがAO入試。特にここ10年の間に導入大学は急増し、今や私立では約8割、国公立でも4割以上が実施。2012年度入試からは東京大学でも初のAO入試がスタート（対象は留学生や帰国生）。また、推薦入試の中でも自己推薦など、実質AOに近い内容の入試が増えている。

AO入試は、学力試験だけでは測れない受験生の能力や意欲、個性を評価し、選抜するのが特色。さらに大学入学後のことを考えると、次のようなメリットもある。

「一般入試の場合、第一志望ではなかったなど、自分の結果に納得できないまま大学生活をスタートするケースもありますが、AO入試はそういったミスマッチが起きにくい。また、AOの場合、本人は何を学びたいかを決めて志願しているはずですし、さらに入学前教育を行う大学も多いため、大学進学後に感じるギャップは一般入試に比べると少ないはずです」（筑波大学教育学系／大谷奨准教授）

ただ、浸透するに従って、大学によっては一般入試組との学力格差が顕著になるなどの課題も顕在化。他の入試よりも早い時期に行われるため、早々に進路が決まってその後の勉強に身が入らなくなるケースも現実にある。だとするとやはり受験勉強はしたほうがいい…？　大谷准教授も「受験勉強という山を越えて目標を達成することは高校生にとって一つの自己実現」だと話す。

しかし、だからといってAO入試を安易に〝楽な道〟と考えるのも誤りだ。

「AO入試では大学側から求める人物像が明示されます。それに合致するかどうか、自分の長所・短所、アイデンティティを自分自身で客観的にジャッジすることには、相応の重さと意義があります」（大谷准教授）

なお、大学によっては、前出の問題点解消のため、センター試験を課すといった基礎学力重視のAO入試改革を進めている。こうした現状も踏まえて、あなたはAO入試や大学入試のあるべき姿をどのように考える？